

令和元年度 第3回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

- 1 日 時 令和元年11月26日(火) 18:30~20:20
- 2 会 場 とかちプラザ 3階 特別会議室
- 3 出席委員 朝倉 洋一、池下 栄里子、藤崎 禎人、阿部 好恵、平田 昌弘、矢野 充、
鳴海 亮、松田 信幸、池田 健一、岸田 智子、川岸 仁、野原 一行、
久保田 博己、石山 隆幸、廣瀬 有紀、金谷 洋子、村上 博子
(以上17名 敬称略)
- 4 事務局 帯広市教育委員会教育長 池原 佳一、生涯学習部長 草森 紳治、スポーツ振
興室長 葛西 克也、生涯学習部企画調整監 森川 芳浩、図書館長 前原 匡宏、
スポーツ振興室主幹 河瀬 祐二、生涯学習課長 中小原 治子、文化課長 渡邊
誠克、百年記念館長 山原 敏朗、動物園長 柚原 和敏、生涯学習課生涯
学習推進係長 大橋 由幾、生涯学習課生涯学習推進係主任補 米林 史哲、
学校教育部企画調整監 福原 慎太郎、企画総務課長 佐藤 克己
(以上13名)
- 5 講 師 十勝教育局教育支援課社会教育指導班主査 佐々木 直人
- 6 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 挨拶 帯広市教育委員会 教育長 池原 佳一
 - (3) 議題
 - (4) 閉会
- 7 議事要旨
 - (1) 北海道社会教育研究大会 大会出席報告
事務局より説明。
 - 委員
大会研究主題は、「人生100年時代の地域づくりと社会教育～持続可能な地域創生と社会教育委員の役割～」である。参加者は、名簿上480名であった。追加報告する。
 - (2) 帯広市教育基本計画(令和2年度～令和11年度)(原案)について
事務局より説明。
 - 委員
小中一貫教育は、どこに載せられているのか。
 - 学校教育部企画調整監
個別施策12、主な取り組み、1. 学校間の連携の推進の(2)に記載。

○ 委員

保育所、幼稚園についての記述があるが、認定子ども園や学童保育の記述があっても良いのでは。

● 学校教育部企画調整監

ご意見として承る。

- (3) 第四期帯広市子どもの読書活動推進計画（原案）について
事務局より説明。
〈意見なし〉

- (4) コミュニティ・スクールについて
事務局より説明。

○ 副委員長

学校評議員とCSの違いは、構成員は何名か。

● 学校教育部企画調整監

学校評議員は各校5名。評議委員制度は廃止し、CSに移行していく予定。評議委員は校長に対して個人で助言、CSは組織として学校や教育委員会に意見を述べる。CSは1校の場合、10名+校長で計11名。3校では、12名+3校長で計15名。運営協議会の規則では、保護者、地域住民などで組織する。

○ 委員

CSに教頭は、入らないのか。

● 学校教育部企画調整監

事務局として入っている。

○ 委員長

社会教育委員がパイプ役としてCSへの入り方がよくわからない。

● 十勝教育局教育支援課社会教育指導班主査

帯広市ぐらいの規模になると、社会教育委員で全てを網羅するのは難しい。

まずは、自身のフィールドで学校と関わりを持ち、活躍してくところから始めては。

○ 副委員長

帯広市と同規模都市での実例があれば教えてほしい。

● 十勝教育局教育支援課社会教育指導班主査

旭川市では、公民館を軸にそこで活躍している人と学校の評議員を合わせた形など。

士別市は、各学校の運営協議会の代表者が集まり、代表運営協議会で話し合い各地区へ持ち帰る形。どれが良いかということは、これから先、どういう方向に進むかによって変わる。

○ 委員

つつじが丘小で協議会の会長をやっている。元は学校ボランティアの会長でCSに移行した際に自然と移行できた。地域の思いを伝えていきたいと思っている。

- (5) 今後の社会教育委員会議でのテーマについて
事前に各委員から出されたテーマ案をもとに議論

○ 委員長

テーマ案に対しての意見は。

○ 委員

まちづくりにテーマを絞り、①自然と環境、②スポーツと健康、③文化・芸術、④福祉・地域の4つに分けて議論してはどうか。

○ 委員長

まちづくりのテーマを4つに分けたとして、どれからはじめるか。

○ 委員

1回毎に議論の内容を変えるのは、議論が深まらないのでは。1つの内容について何回も続けていくのも面白いのでは。

○ 委員長

テーマが大きい場合、議論を深めていくためカテゴリは分けなければと考えている。実際の議論の場は、少人数に分けて発言し易いようにしようにしたい。委員の意見を参考に、事務局とも相談して進めていきたい。

○ 委員

テーマ自体は良いが、議論を始めるにあたっては、テーマが大きすぎるので、ブレインストーミングなどを取り入れたり、キーワードを示したりして議論に取り掛かりやすいようにしてはどうか。

○ 副委員長

テーマの中で誰が住みたいのか、自分か、子供達か、他の地域の住民か。

○ 委員長

焦点を定めるために参考にしたい。次回は、何から始めるか。

○ 委員

少し大きくはなるが、「住みたいと思うまちづくり」からはじめてはどうか。

● 事務局

次回以降の今後議論するすべてのテーマを決めてもよいが、1回目の進み具合によって柔軟にそれ以降の方向性を決めて頂いてもよいと思う。

○ 委員長

第1回目のテーマは、「住みたいと思う帯広のまちづくり」から始め、進捗具合によって、次回以降を詰めていくことでよろしいか。

(了承の声)

(4) その他

配付物等について説明。

以上